

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 高橋 博文さん(北上市)

取材担当 中部農業改良普及センター 田村七海

北上市鬼柳町で令和2年に水稲と露地ピーマンで新規就農した、高橋博文さんを紹介します。

高橋さんは塗装業に勤めた後、農業が盛んである地元で自身も農業を始めてみたいという思いがあり就農しました。最初は水稲・露地ピーマンで就農しましたが、現在は水稲を5ha から16ha に拡大、加えて麦 40a、大豆1ha を作付けしており、妻の明音さんと協力しながら農業を営んでいます。

偶然農業を辞める方から機械を譲り受けることができたものの、規模拡大するにつれ作業効率が落ちてしまうことが課題になっていました。そこで事業を活用して中古トラクターを購入し、トラクター2台を稼働することで、何とか作業を終えられるようになったとのことです。今年も無事に田植えが終わり高橋さんはホッとした様子でした。

毎年地元の農家が減少しており、田んぼの管理作業を頼まれることも多々あるそうです。基本的には断らず請け負っていきたいとのことで、高橋さんの鬼柳町の農業を守っていききたいという強い意志が感じられました。

今後も地域の頼れる担い手として、ご夫婦での活躍が期待されます。



中古トラクターと高橋氏